

## 世界に誇れるものづくりで、日本の元気を取り戻す

理事長 西河洋一

日本の強みは、モノづくりにあると思います。日本には、日々の改善に取り組める現場力があるからです。日本人の知恵と誠実さで、世界のモノづくりを支えてきました。元気がなくなってしまった昨今の日本、立ち直りの切欠は無いものでしょうか。

### 建築工期を3分の1にする

筆者が立ち上げたアーネストワンは、戸建て住宅の建築工期を、3分の1以下に短縮することを目標としました。

当時出始めた軸組構造材のプレカットシステムを、新技術として導入、支配下にプレカット工場を新設し、日々進化させてきました。木材加工の殆どを工場で行うフルプレカットを目指し、現場作業を極限まで減らすことに挑戦し、合わせて全ての建築作業工程の無駄を見直しました。

### 工期の短縮で資金に余裕

細かな改善を積み重ねながら、工期の短縮を実現してきました。目標を達成すると、色々なメリットが見えてきました。「棚卸回転率が改善する」「同じ要員で売上3倍、利益3倍を実現」などです。

更には、資金が高速に回ることで、資金余裕もできてきました。通常不動産の販売は、現金で行いますので、現金を容易に入手できます。一方、出金である材料などの支払いは、手形で行いますので、早く売れば売るほど、現金が手元に残ることになります。

事業拡張に当たっては銀行からの借入金に頼らなくても、事業を伸ばすことが可能となりました。その結果、急速な事業の拡大に耐えられる財務体質を構築することができました。

### 早建コンテストで29時間弱

9年前2007年より年一回、『早建てコンテスト』を地域ブロックごとで実施しました。先行工事として、コンクリートの基礎、外構工事、仮設足場、配管、の状態から、朝8時に全国一斉にスタートします。朝礼、土台敷、断熱材挿入、床合板貼、建て方へと進んで行きます。電気、ガス、水道のインフラを接続し、住める状態まで完成させ、完了公的検査取得時点で終了となります。第一回目の記録は7日でしたが、昨年16年秋には、28時間54分(前年より2時間35分短縮)となりました。(アーネストワンのホームページから見るができます。(注1)) 技術経営の取り組み結果の一例です。

### 日本人の現場力で生産性向上

現在進行中の生産年齢人口の減少を解決するには、生産性の向上が課題となります。

新しい時代に向けて、日本人の持つ改善の現場力をフルに発揮して、世界に誇れる『ものづくりの国日本』とし、元気を取り戻していきましょう。